15.　肺癌転移性骨腫瘍に ^{99m}Tc-ECD が集積した1例

須井　修　木村なづな　松井　里奈
（国立善通寺病院・放）

症例は48歳，男性．平成8年11月から，右肩から頸部の痛みが出現し，CEA高値であったため，当院を紹介された．右肺腺癌，多発性転移性骨転移の診断のもとにMVP療法(4クール)施行され，以後，外来にて経過観察となった．平成9年10月より全身倦怠，食欲不振が強くなり，再入院となった．頭部CTにて脳転移が発見され，放射線治療(50 Gy)を施行した．平成10年1月，痙攣，意識消失が出現したため，頭部CT，ECD-SPECTを施行した．

頭部CTでは，頭頂部に脳転移，頭蓋骨にも多発性転移が認められた．ECD-SPECTでは頭蓋骨の骨転移に一致した集積が認められた．

同時施行していたRIアンギオでは，hypervascularityは認められなかった．骨シンチでは，リング状の異常集積がみられた．

^{99m}Tc-ECDの腫瘍への集積はほとんど報告されていないが，なんらかの特異的な集積部位，または集積機序が考えられた．

16.　口腔癌の下顎骨浸潤
——^{201}Tl-HMDP SPECTによる評価——

福田　有子　小野　優子　福永浩太郎
山本　由佳　西山　佳宏　高島　均
大川　元臣　（香川医大・放）
川崎　幸子　（麻田総合病院・放）
川瀬　良郎　（聖マルチン病院・放）

口腔腫瘍において，下顎骨浸潤が問題となるが，下顎骨は歯のアーチファクトにより診断が困難な場合や大きな腫瘤を形成しないと分かりにくい場合がある．口腔腫瘍11例について^{201}Tlと^{99m}Tc-HMDPのDual SPECTを撮像して骨浸潤の評価を行い，同時期に施行したCTまたはMRIと比較検討した．Dual SPECTで骨浸潤ありと判定したのは6例で，これら全例に組織学的に骨浸潤を認めた．CTまたはMRIでこの6例のうち5例に骨浸潤ありと判定したが，1例で骨浸潤の評価が困難であった．CTまたはMRIで評価困難な骨浸潤に対して^{201}Tlと^{99m}Tc-HMDPのDualシンチグラフィは有効と考えられた．

17.　^{99m}Tc-PMTで診断し得た原発性肝癌の恥骨転移

村上　祐司　石根　正博　金田　玲子
浦島　正喜　和田崎晃一　中村　和民
（市立安佐市民病院・放）

従来より，肝胆道シンチグラフィ用製剤が肝細胞癌に集積する例があることが知られており，この性質を利用した肝細胞癌およびその肝外性転移の診断における肝胆道シンチグラフィの有用性についての報告がなされてきた．今回，われわれの施設において質的診断に肝胆道シンチグラフィ製剤^{99m}Tc-PMTが有用であった原発性肝癌の恥骨転移症例を経験したので，その治療経過と若干の文献的考察を加えて報告した．

18.　Hepatomaのextraosseous metastasis 2例の^{99m}Tc-PMT SPECT

早瀬　直子　福本　光孝　黒原　篤志
西川　徹　藤原　良将　久　直史
吉田　祥二　（高知医大・放）

肝細胞癌の転移を検出する方法として^{99m}Tc-PMTを用いた肝胆道シンチの有用性が報告されているが，これまでそのほとんどが骨転移巣であり，planar imageでの検討であった．しかしplanar imageのみでは組織学的に証明されている肝細胞癌の転移を検出できないことがしばしば経験される．

今回われわれは，転移巣の検出と治療効果の判定にPMT SPECTが有用であった，まれな肝細胞癌骨外転移の2例を経験したので報告した．PMT scanによる転移巣検索を行う場合は，planar imageの限界点を考慮し，SPECTの追加を積極的に行うべきであると思われる．

19.　^{99m}Tc-MAG$_3$を用いたカメラ法による分腎クリアランス値算出に関する基礎的検討

三村　浩朗　大塚　信昭　友光　達志
柳元　真一　石川　哲也　曽根　照喜
福永　仁夫　（川崎医大病院・核診部）

腎のクリアランス値と腎摂取率の関係から，分腎クリアランス値を算出する際の精度向上を目的とし

Presented by Medical*Online